

大雪山頂の蜂類

内田登一

北海道帝國大學農學部昆蟲學教室

Einige Hymenopteren aus dem Berg Daisetsu

Von TOICHI UCHIDA

今まで大雪山の蜂類の記述せられたものは極めて僅であつて、數種の姫蜂、蟻及び葉蜂等があるに過ぎない。茲に記した大雪山の蜂類は山頂及びその附近に産するもののみであつて、所謂大雪山國立公園地帶と云ふ廣汎な範圍に産するものに就ては、他日稿を改めて記す事にする。

筆者が本文に記した蜂類は *Bombidae* (圓花蜂科) 3 種, *Vespidae* (胡蜂科) 9 種, *Formicidae* (蟻科) 3 種, *Ichneumonidae* (姫蜂科) 11 種のみである。以上の中大雪山特有種と見る可きものは *Ichneumon daisetsu:anus* UCHIDA 及び *Scopesus albifrons* UCHIDA の 2 種に過ぎない。

Vespidae 胡蜂科

1. *Macrovespa crabro* (LINNÉ) モンオホスマメバチ (改稱)

Vespa crabro LINNÉ, Syst. Nat., Ed. 10, p. 572 (1758).

分布：舊北洲全般。

本邦に於ても、北は樺太より南は九州まで分布してゐる普通種であつて、家屋の屋根裏や、樹幹の洞穴や、時に地中等に大型な巣を造るものである。而して本種には多數の變種が記録せられてゐる。1931 年に BEQUAERT¹⁾ は色彩の變異を基準として、9 變種を記した。同氏に依れば、本邦に産するものは原種及び 2 變種である。即ち原種 *crabro* (LINNÉ) は樺太に産し、本州に産するものは var. *flavofasciata* CAMERON であつて、これは多くの人に依つて var. *crabroniformis* (SMITH) とせられたものである。而して眞の *crabroniformis* は南支那に産する 1 變種であると云ふ。更に又北支那及び朝鮮に産するものは var. *birculai* BEQUAERT であると。

然しながら、筆者は數百の本邦産(北樺太、南樺太、北海道、本州、四國、九州、朝鮮)支那、歐洲産の個體を檢して見たが、BEQUAERT 氏の云ふが如き色彩の變化は、何等系統的なものでもなく、又地方的のものでもなく、少しも固定的のものではない、唯單に個體による變異と思はれる。それ故に筆者はすべてを原種の *crabro* として取扱ふのがよい様に思ふ。

2. *Macrovespa simillima* (SMITH) ケブカホスマメバチ (改稱)

Vespa simillima SMITH, Ent. Month. Mag., 4, p. 280 (1868).

1) BEQUAERT:—Konowia, Bd. 10, pp. 101-109 (1931).

分布： 北海道；本州。

本種は北海道に於ては割合に珍らしい種類であつて、本種に就て楚南氏は記述してゐるが、同氏の言の如く時に *xanthoptera* (CAM.) 又は *mongolica* (AND.) と混同せられて居つた様である。筆者の知る範囲では *xanthoptera* は北海道に産せぬ様である。尙茲に一言するが松村博士の *mongolica* とせるものは *D. media* (DE GEER) の雌である。

3. *Vespa (Vespa) japonica* (SAUSSURE) クロスマメバチ

Vespa japonica SAUSSURE, Rev. Mag. Zool., (2), 10, p. 261 (1858).

Pseudovespa japonica GUSSAKOVSKIJ, Ark. Zool., 24, p. 51 (1933).

分布： 北海道；本州；四國；九州；朝鮮；満洲；アムール。

本種の和名は、最初 1906 年に、松村博士によつて、日本害蟲目録に、コガタノスマメバチと命名せられたが、その後 1911 年に、續千蟲圖解、三卷に於て、クロスマメバチと改名せられ、後者が現在一般に使用せられてゐるから、これを標準和名としたいと思ふ。古くから方言としては、地方によつて、ツチバチ、ヂバチ、スガレ、ツチスガリ等と呼ばれてゐる。本種は常に地中に造巣するものであつて、その幼蟲は食用に供される。

札幌附近に於て、8 月中旬頃本種の巣を探集すると、その幼蟲と混じて *Trigonaloidea* の 1 種、*Nippogonalo* jezoensis* UCHIDA が寄生してゐるのが見られる。然しこの寄生者が如何なる過程を経て、本種の巣に到達するか實に興味ある問題であるが、未だ筆者には遺憾ながら充分に明でない。

4. *Vespa (Vespa) sibirica* (ANDRÉ) (PL. IX, Fig. 3, ♀)

ナミスヂクロスマメバチ（新稱）

Vespa sibirica ANDRÉ, Spec. Hym. Eur., 2, p. 599 (1884).

Vespa japonica MATSUMURA (nec SAUSSURE), Journ. Coll. Tohoku Imp. Univ., 4, p. 104 (1911).

分布： 樺太；千島；北海道；西比利亞。

本種は前種クロスマメバナに極めて酷似するものであつて、松村博士は *V. japonica* が樺太に産する如く報じてゐるが、それは明に本種であつて、樺太及び千島には *V. japonica* は産しない様である。而して松村博士が *V. rufa* L. var. *sibirica* SAUSS. となしたもののは本種でなくして、*Dolichovespula media* (DE GEER) である。

元來本種は西比利亞原産のものであつて、本邦よりは 1903 年に BUYSSON 氏が HARMAND の採集品から記したのが最初である。然し樺太、北海道、千島等には割合に普通であるが、本州に於ては稀なものであつて、筆者は越後及び信州上高地産の 2 ♀ を有するのみである。

松村博士の本種に與へた和名は、實は *D. media* の和名となる可きである。従つて本種には未だ和名のなき譯である。よつて筆者は上記の加く本種がクロスマメバチに酷似し、而も腹部の黃白帶が波状を呈して居るから、ナミスヂクロスマメバチなる和名を、茲に新に命名する事にした。尙本種は次の諸點に於てクロスマメバチと區別する事が出来る。

* 筆者の創設した新屬であるが、これは北米に産する *Baraeogonalo* の異名であるかも知れない。而して本種 *jezoensis* はジャワにまで分布してゐる。

V. (Vespa) japonica (SAUSS.)

- 1) 頭、胸及び腹部に於ける點刻は小である。
- 2) 複眼内側の凹所は殆んど全部白色。
- 3) 複眼の後方は頭頂の後部を除き他は大體に至るまで全部白色。
- 4) 各腹節の後縁の白線は波状を呈してゐない。
- 5) 積状部の2白紋は小、後積状部の2白紋は大。
- 6) 各脛、跗節は一般に黄白色にして、其の後面は黒色なる事が多い。
- 7) 地中に大形の巣を造る。

V. (Vespa) sibirica (SAUSS.)

- 1) 頭、胸、腹部に於ける點刻は大で一般に強い。
- 2) 複眼内側の凹所は僅かに下縁のみ細く白色。
- 3) 複眼の後方には頭頂の左右に1白紋を有するのみ。
- 4) 各腹節の後縁には波状の白線を有してゐる。
- 5) 積状部の2白紋は著しく大なるも、後積状部の2白紋は小にして、時に缺如する。
- 6) 各脛、跗節は一般に黄褐色。
- 7) 軒下又は樹枝等に小形の巣を造る。

5. *Vespa (Pseudovespa) austriaca* (PANZER) (PL. IX, Fig. 4, ♀)

ヤドリスマメバチ(新稱)

Vespa austriaca PANZER, Faun. Ins. Germ., 4, p. 15 (1799).*Vespa borealis* SMITH, Zoologist, 1, p. 170 (1843).*Vespa arborea* ROSS, Zoologist, 3, p. 156 (1845).*Vespa rufa* LINNÉ var. *austriaca* SCHENCK, Progr. Germ. Weilburg, p. 16 (1853).*Vespa (Vespula) austriaca* THOMSON, Opusc. Ent., 1, p. 82 (1869).

Vespa (Pseudovespa) austriaca SCHMIEDEKNECHT, Ent. Nachr., 7, pp. 313-318 (1881).
 樺太(一ノ澤・氣屯・富内・散江); 北海道(大雪山); 本州(大和・山上嶽・彌山); 西
比利亞; 歐洲; 北米。

本邦に產するものは、腹部の斑紋が少しく、歐洲產の原種とは異なるが、敢へて新變種とする必要もないと思ふ。而して本種は寄生々活をなすものであつて、従つて自分自身では造巣をしないからして、働き蜂をもつて居ない。而して歐洲にては *V. rufa* 又北米に於ては *V. arenaria* (F.) の巣に寄生する事が知られて居る。尙この兩者の關係は恰も *Bombus* 類と、其の巣に寄生する所の *Psithyrus* 類の如くである。然し本種は本邦に於ては、北は樺太より本州中部(山地帶)まで分布し、左程稀なものでないが、これが寄生するところの *V. rufa* は筆者の知る範囲では產しない。そこで本種が寄生々活に依つてのみ繁殖するものとすれば、*rufa* に代るべき他の寄主がなければならぬ。本種と形態的にも亦分布の上からも相似たところのものには *V. vulgaris* (LINNÉ) や *germanica* (LINNÉ) が本邦には產するから、これ等の或るものに寄生するものであらうと想像する事が出来る。然し本邦に於て果して本種が如何なる *Vespa* に寄生するかは不明であつて、これは興味ある問題として今後の研究に俟たなければならない。

本種は以上の如き生態的の外に、形態的にも他の *Vespa* 類と可成りの相違があつて、他の *Vespa* 類の様に Propodeum(前仲腹節)には長毛を密生してゐないで、僅かに短い綿毛が生えてゐるのみである。斯の如き特徴に依つて SCHMIEDEKNECHT 氏は亞屬 *Pseudovespa* を創設して、他の *Vespa* の亞屬と區別した。然しながら CARPENTER 及び PACK

BERESFORD¹⁾ は、本種とその寄主である *rufa* との關係に就いて論じてゐる。兩氏の說に依れば本種は *rufa* の祖先形であると云ふ。而して、これには系統的や形態的の詳細な種々な點を擧げて説明してゐる。兩氏の說の如く、これ等 2 種は古き昔に於ては同一種であつても、現在は生態的に又形態的に可成りの相違が生じ、最早各々獨立の種となり、更に屬をも異にすべき程に相隔つたものとなつたのであらう。斯の如くにして新種や新屬も生ずる事があるであらうと思はれる。以上の如く既に *rufa* とは、完全に獨立した種となつて、*rufa* は依然として造巣して、社會的生活をするのに反し、*austriaca* は専ら寄生生活を營み、終には *rufa* のみに限らず、これに近縁な他の種の *Vespa* の巣にも寄生する様になつたもので、其の結果、北米や本邦の如く *rufa* を産せざる所にも、よく寄主を求めて本種は生活する様になつた事を想像する事が出来る。

而して本種や上記の *V. (Vespa) vulgaris* (L.) や *V. (Vespa) germanica* (F.) は本邦からは未記録のものである。前者は北海道及び樺太に產し、後者は朝鮮に普通種であつて、RADOSKOVSKY 氏が朝鮮から記した *V. koreensis* は恐らく後者の異名である。

6. *Dolichovespula media* (DE GEER) (PL. IX, Fig. 1, ♀)

キオビホ、ナガス、メバチ (改稱)

Vespa media DE GEER, Mém. Hist. Ins., 2, p. 791 (1771).

Vespa geeri LEPELETIER, Hist. Nat. Ins. Hym., 1, p. 510 (1836).

Vespula media THOMSON, Opusc. Ent., 1, p. 79 (1869).

Vespa rufa LINNÉ var. *sibirica* MATSUMURA (nec ANDRÉ), Journ. Coll. Agr. Tohoku Imp Univ., 4, p. 104 (1911).

分布：樺太；北海道；本州；朝鮮；西比利亞。

本種は前述の如く松村博士がキオビクロスマメバチとして記したものである。然し和名は續千蟲圖解、3 卷にオホクロスマメバチと改稱し、この和名が使用せられてゐる。筆者は上記の和名は *V. sibirica* と誤られて同定せられた本種に附したものであり、且つ何れも適當のものでないから、上記の様に改名した。

既に本種は 1887 年に RADOSKOVSKY²⁾ 氏が朝鮮に產する事を報告してゐるが、朝鮮以外の本邦内に產する事は今回が始めての様である。

7. *Dolichovespula norvegica saxonica* (FABRICIUS) (PL. IX, Fig. 2, ♀)

ホ、ナガス、メバチ (新稱)

Vespa saxonica FABRICIUS, Ent. Syst., 2, p. 256 (1793).

Vespa bavarica SCHRANK, Fauna Boica., 2, p. 350 (1802).

Vespa borealis ZETTERSTEDT, Ins. Lapp., 1, p. 454 (1838).

Vespa norvegica LINNÉ var. *saxonica* SCHMIEDEKNECHT, Hym. N. and M. Europas, p. 568 (1930).

Vespula norvegica saxonica BIRULA, Ann. Mus. Zool. Ac. U. R. S. S., 31, p. 305 (1930).

1) The relationship of *Vespa rufa* and *V. austriaca* (Ent. Month. Mag., 39, pp. 230-242 (1903)).

2) Horae Soc. Ent. Ross., 21, p. 260 (1793).

分布： 樺太；北海道；本州；西比利亞；カムチャツカ；歐洲。

BIRULA 氏は本種を *norvegica* の亞種とした。それ以前は獨立種として多くの人々から取扱はれてゐた。然し HEDICKE 氏の如きは *norvegica* を反対に *saxonica* の亞種とした。而して廣く北部歐洲から西比利亞を通じ樺太、カムチャツカ地方まで分布し、本邦に於ても北海道及び本州の中央山地帯にまで分布してゐる。既に BUYSSON¹⁾ は 1903 年に *norvegica* が本州に産する事を報告してゐる。この標本は眞の *norvegica* であるか或は亞種である *saxonica* かは筆者には不明である。然し北海道及び樺太に普通に産するものは亞種 *saxonica* 及び次の亞種 *pacifica* であつて、原種 *norvegica* は產しない。

8. *Dolichovespula norvegica pacifica* (BIRULA) シロヲビホヽナガスマベチ(新稱)

Vespa norvegica pacifica BIRULA, Ann. Mus. Zool. Ac. Sc. U. R. S. S., 31, p. 317 (1930).

分布： 樺太；北海道；カムチャツカ；アムール。

前亞種とは腹節後縁に白帶を有する事によつて一見區別することが出来る。樺太には前者同様普通であるが、北海道に於ては稀れなものである。

9. *Polistes opinabilis* KOHL トガリフタモンアシナガバチ(新稱)

Polistes opinabilis KOHL, Ann. Naturh. Wein, 13, p. 90 (1898).

Polistes chinensis MATSUMURA (nec FABRICIUS), Thous. Ins. Jap., Suppl. 3, p. 105 (1911) (partim).

Polistes gallicus MATSUMURA (nec LINNÉ), Ill. Thous. Ins. Jap. 2, p. 8, (1930) (partim).

分布： 北海道(各地)；アムール；中部歐洲。

本種は本邦よりは今日までこの學名に於ては未記録のものである。而してその和名は雄の額片の著しき特徴により【トガリフタモンアシナガバチ】と新稱する事にした。然し松村博士の *P. chinensis*, 後の *P. gallicus* には本種も含まれてゐる。北海道帝國大學昆蟲學教室の松村博士が *P. chinensis* 即ち *P. gallicus* と後で改められた多數の標本を検すると、その中には眞の *P. chinensis* (但し DALLA TORRE は本種を *P. biglumis* (F.) の synonym となし, 又 PÉREZ はこの意見に對しては, 尚, 疑問であるとしてゐる。筆者も眞の *P. biglumis* を検する事能はざれば, *chinensis* がこの synonym なるか如何を確定することが出來ぬ。故に今暫く疑問として置く次第である)も又その var. *antennalis* PÉREZ 也, 更に歐洲產の眞の *gallicus* も尚 *opinabilis* も混入してゐた。

然し續千蟲圖解, 3 卷, 第 39 圖版, 第 3 圖の雌は同博士の符號に依つて眞の *chinensis* F. (*biglumis* F. ?) である事が判つたが, その記述を見ると必ずしも本種のみの記載でなく *gallicus*, *opinabilis* 及び *chinensis* F. var. *antennalis* 等が混同せられてゐる様である。特にその分布を見れば明なる様に *chinensis* が北海道, 本州, 九州, 臺灣, 支那に産すとあるが, *chinensis* は本邦に於ては臺灣, 沖繩 (?) のみに分布するものゝ様である。而して同博士著, 増訂日本千蟲圖解に於ては *gallicus* とその學名 *chinensis* を改めて居り, その分布に樺太, 歐洲を附加し, 臺灣及び支那を除いた。然しこれは *gallicus* では全くなく, 真の *gallicus* は本邦内には産せぬものの様である。且つ樺太に於ては 1 種だにも *Polistes*

1) Bull. Mus. Hist. Nat., 9, p. 127 (1903).

屬に属する蜂類は產せぬ様に思はれる。少くとも當昆蟲學教室の標本中には未だ發見されてゐない。

そこで今日迄の本邦から報告せられてゐる色彩近似の *P. chinensis* F. 及びその var. *antennalis* PÉREZ 及び *P. gallicus* L. は次の様に整理すべきであらう。

A) *Polistes opinabilis* KOHL トガリフタモンアシナガバチ

Polistes chinensis MATSUMURA (nec FABRICIUS) (partim).

Polistes gallicus MATSUMURA (nec LINNÉ) (partim).

分布： 北海道；アムール；中部歐洲。

B) *Polistes biglumis* (FABRICIUS) (*chinensis* F. ?) フタモンアシナガバチ

Polistes chinensis MATSUMURA (nec FABRICIUS) (partim).

Polistes gallicus MATSUMURA (nec LINNÉ) (partim).

分布： 沖繩 (?)；臺灣；支那。

C) *Polistes biglumis* F. var. *antennalis* PÉREZ (*chinensis* F. ?)

フタモンアシナガバチ（變種）

Polistes chinensis MATSUMURA (nec FABRICIUS) (partim).

Polistes gallicus MATSUMURA (nec LINNÉ) (partim).

Polistes antennalis YANO, 日本昆蟲圖鑑, 300 頁 (1932).

分布： 本州；四國；九州；朝鮮。

上記の如く矢野氏は *antennalis* を獨立種としてゐるが、これは全く PÉREZ 氏の言ふ如く *biglumis* 即ち *chinensis* (?) の 1 變種に過ぎぬものであつて、雄の顎、額片及び生殖器等の構造にも、何等の區別すべき差違を認むる事は出來ぬ。而して本種は本州の北端山形・岩手・秋田・青森等に普通に產するも、一葦帶水津輕海峡を越えて北海道には產せぬ。その反対に極めて本種に酷似する *opinabilis* の本州に於ける標本は未だ筆者不幸にして見た事なく、本州産のものは何れも *antennalis* である。

以上述べた *Polistes* 類は一見甚だ色彩斑紋等酷似した種類であるが、次の如くにして區別する事が出来る。

A. *Polistes gallicus* LINNÉ

雄の額片の前縁は兩側に於て彎曲してゐる。雌の觸角の基部の 3 節は上面黑色、最後の腹面節は黃色。大腮黑色。

B. *Polistes biglumis* F. var. *antennalis* PÉREZ

雄の額片は前縁波状に彎曲する事なく丸味を帶びて著しく突出し、周縁は甚しく縁取られてゐる。雌の觸角基部の 2 節は全部、第三節は基半部黑色。大腮に大なる黃紋を裝ふ。腹部の最後の 2 腹面節は黑色。而して原種との差違は肩部及び第二腹節の黃圓紋の周囲の黒色なると、一般に黃斑の小形なるにある。

C. *Polistes opinabilis* KOHL

雄の額片は前縁著しく突出し、特にその中央部は齒狀に突出されども、前縁は前種の如く縁取らるゝ事なし。雌の觸角上面黑色。大腮及び最後の 2 腹面節は黑色。

本種の巣は多く地上1米内外の藪の中にあつて略圓形、暗褐色、幼蟲の作る巣房の蓋は白色。大なるものは徑6-7mm。

10. *Polistes snelleni* SAUSSURE f. *nigrihumerus* f. nov. コキボシアシナガバチ

♀, ♂。體長雌は13-15mm。働き蜂は11-12mm。色彩及び點刻等兩者全く同一であつて、體色黑色、觸角上面は黒色なれども下面は赤褐、額片は黃色、その周縁は黒色に縁取られ、全面平滑、光澤を有し、細毛を粗生する。複眼外縁は細く黃色、大腮並に頬は赤褐なれども大きな黃斑を有してゐる。前胸の前縁には稍々鋭い黃色の縁を有してゐる。更に前胸側板の上縁は黃色又は黃褐、肩片は黃褐、稜状部は黒色にて、その兩前縁角は黃色、後胸背面の兩側に大なる黃紋を裝ひ、前伸腹節の後面には太い縱黃條をもつてゐる。尙その末端兩側即ち後基節の上部に黃紋を裝ふ。中胸側板の上部即ち翅の下部にも小黃斑を有するが、時にこの黃紋は個體により消失するものがある。脚は赤褐であるが、總ての基節及び腿節の下面は黒色、各跗節の第三節以下も亦黒色乃至暗赤褐色。第一・三・四腹節の後縁は殆んど黃色、第一節には更に兩側に黃圓紋を有する個體がある。他の各節の後縁は黃赤褐なれども特に第二節の後縁は濃赤褐にて、時に働き蜂に於ては赤色を呈する個體も存する。

頭、胸及び腹部共に微細なる金色毛を有し、頭胸部には大なる點刻を有し、稜状部は平く僅かに圓味を帶ぶるに過ぎない。前伸腹節には太き横條を有して居る。翅は黃褐、半透明。

♂。體長10mm内外にて、觸角柄節の下面は黃色、顔、額片、大腮、頬等も亦黃色にて、銀白細毛を密生し、絹糸様の光澤がある。額片の前縁は殆んど一直線であるが、少しく兩側に近く波状に彎曲する。各基節及び腿節の下面は黃色、中胸側板の前方に大きな黃斑があり、前伸腹節の黃條は一般に雌や働き蜂に比して小形、時に消失するものさへもある。個體により第二腹節後縁の黃褐帶上に2個の黃紋を有するものもある。その他は雌及び働き蜂に酷似する。

而して原種 *P. snelleni* SAUSS. と異なるところは前胸側板の上部(肩部)及び稜状部等の黑色なると一般に體の細小なる事であるが、然し個體によつて稜状部は少しく黒褐のものがある。又原種中にも本變種の如く肩部や稜状部に少しく黒色を呈するものがある。

產地： 北海道(定山溪, 5♀, 6♂, 7♂, 28/VIII, 1903, 松村博士採集。札幌, 2♀, 6/X, 1910, 松村博士採集。大雪山, 1♀, 10/VIII, 1926, 著者採集)。

附言： 原種 *P. snelleni* SAUSS.¹⁾ は本州・四國・九州・朝鮮及び満洲等に分布する普通種である。然し北海道に於てはこれに相當するものなく、何れも上記の如き型のものゝ様である。而して本邦に普通な *P. mandarinus* SAUSS.²⁾ (キボシアシナガバチ)は、最も本種に近縁なものであつて、これ等兩者の雌の中には區別困難なる程に色彩、形態等の酷似するものがある。更に巣の形態も亦頗るよく似て居つて、即ち兩者共に地上より餘り高くない藪の中などに造巣し、小枝に附着せしむる巣の柄の附着點より必ず一方にのみ巣を擴大する性質を共有して居り、爲に充分大きくなつた巣は細長く、且つ上方に彎曲する。然し

1) *Polistes snelleni* SAUSSURE, Stett. Ent. Zeit., 23, p. 140, ♀ (1862).

2) *Polistes mandarinus* SAUSSURE, Étud. fam. Vespida, 2, p. 59, ♀ (1853).

これ等は次の諸點に於て容易に區別することが出来る。

P. snelleni SAUSS.

- (1) ♀, ♂, ♂ 等に於て第一, 三, 四腹節後縁の赤褐帶上に相連続する二黃紋を有す。
- (2) 各性に於て觸角上面は黒色, 然し時に雌にては柄節及び轉節は全く赤褐なるものがある。各跗節の第三節以下は黒色。
- (3) 條狀部扁平であるが, 僅かに圓味を帶びて隆起する。
- (4) 雄の後股の基節及び腿節の下面黃色。
- (5) 體の點刻小。
- (6) 巢房の幼蟲の作る蓋は殆んど灰白色。
巣は暗灰色。

P. mandarinus SAUSS.

- (1) 第三及び四腹節には黃紋を缺く。第一腹節後縁には多少の黃紋を有するが, 時に全く赤褐なものがある。SAUSSURE 氏は第一腹節に黃紋を有し, 前伸腹節に黃條なき個體を變種とせるも, この性質は變種となすべき程の重要性は恐らくないものと思はれる。
- (2) 雌は觸角基部の三節は常に赤褐。各跗節及び脛節は黑色又は黒褐なるが, この色彩には變化性が非常にある。
- (3) 條狀部の中央は少しく凹んで居る。
- (4) 雄の後基節及び腿節の下面は赤褐, 以下殆んど黒褐。
- (5) 點刻少しく大。
- (6) 巢房の幼蟲の作る蓋は黃色。巣は前者よりも暗色薄し。

而して後者 *P. mandarinus* も北海道・本州・四國・九州・屋久島・朝鮮及び満洲に分布する普通種である。

終りに *P. snelleni* の和名に就き一言するに, 本種の和名は, 先づ 1908 年に松村博士によつて, 日本益蟲目録, 133 頁に〔スネレンアシナガバチ〕と命名せられた。其の後本種に關しての記事は見受けられないが, 最近矢野宗幹氏は日本昆蟲圖鑑, 299 頁に於て〔コアシナガバチ〕と和名を附して居る。平山修次郎氏も昆蟲圖譜, 49 圖版にこの和名を用ひて居る。然し同氏の同圖版 9 圖即ち *mandarinus* とせるものが *snelleni* の様である。然しこのコアシナガバチなる和名は松村博士が既に 1908 年 *P. yokohamae* RAD. に對して用ひて居る。然し其の後同博士のコアシナガバチとせるものが眞の *P. yokohamae* RAD. であるか如何は暫く置いて, 何れにもせよこの兩者は全く別種であるが故に, 同一和名を以つて呼ぶことは不適當である。そこで *P. snelleni* に對しては當然スネレンアシナガバチと呼ぶ可きであるが, この和名は不適當のものである上に, 一部の者には上記の様にコアシナガバチと呼ばれて居るから, 筆者は *P. snelleni* は *P. mandarinus* と酷似するが, 小形種なるが故に, その和名にもコアシナガバチに更にキボシを添加して〔コキボシアシナガバチ〕とする事にした。

元來本邦の *Vespidae* 學名も亦和名も非常に混亂して居るが故に, 他日學名の整理と相俟つて, 和名の統一をはなし, 以つて標準和名を決定すべきである。

Bombidae 圓花蜂科

11. *Hortobombus ussuriensis* (RAD.) ハイイロマルハナバチ (新稱)*Bombus ussuriensis* RADOZSKOVSKI, Bull. Soc. Natural. Mosc., p. 196 (1877).

分布： 樺太；北海道；朝鮮；ウスリー地方。

小形の種であつて、餘り多くはないが、北海道の山地には普通に見られるものである。

12. *Bombus sapporensis* COCK. オホマルハナバチ*Bombus sapporensis* COCKERELL, Proc. U. S. Nat. Mus., 39, p. 641, ♀ (1911).*Bombus jesoensis* MATSUMURA, Journ. Coll. Agr. Tohoku, Imp. Univ., IV, p. 104, ♀ (1911).*Bombus sapporensis* MATSUMURA, Thous. Ins. Jap. Suppl., III, p. 147, ♀ (1911).*Bombus ikonnikovi* SKORIKOV, Rev. Russ. Ent., 13, p. 171 (1913).

分布： 樺太；北海道；西比利亞。

本種は北海道に於ては極めて普通なものであつて、松村博士が 1908 年、日本益蟲目録 147 頁に *Bombus alticola* KRIECH. (?) オホマルハナバチとして記したのが最初であつて、其の後松村博士の送付した標本によつて、1911 年、3 月 3 日に COCKERELL 氏は新種として記述した。同年同月 30 日に松村博士は、樺太産の本種に *Bombus jesoensis* と命名して新種として公表したが、これは COCKERELL 氏の名稱が 27 日ではあるが、早いために先占権を有する事になつて、有效な名となつたのである。次に松村博士は同年 6 月 28 日發行の續千蟲圖解、三卷に *Bombus sapporensis* Coq. と本文に記し、圖版には *Bombus sapporensis* ROWHER と記してゐる。その命名者名は何れも誤記であつて、Coq. は多分 COCKERELL の誤りであらうと思ふ。然しその後の本邦の人々も COCKERELL とせずに多くは ROWHER を以つて本種の命名者として居る。更に後年松村博士は日本通俗昆蟲圖說、第 3 卷 (1932 年) に *B. jesoensis* と云ふ新種を記してゐるが、これは全く本種とは異なる種類のものであるが、唯一字 [Z] が異なるのみの同名故に、この名稱は變更すべきものであらう。

13. *Bombus tersatus* SM. キイロマルハナバチ*Bombus tersatus* SMITH, Entomolog., 4, p. 207, ♀ (1869).

分布： 北海道；本州。

北海道には割合に普通であるが、本州では山地帶に產するものの様である。

附記： 以上 3 種の外に、尙數種の圓花蜂類を大雪山に產するが、これ等の種名は未詳に就き、他日判明せる時に記述する事にする。

Formicidae 蟻科

14. *Camponotus (Camponotus) herculeanus* L. *pennsylvanicus* DE GEER var.*saxatilis* RUZSKY タカネクロオホアリ (寺西：改稱)*Camponotus herculeanus* L. *pennsylvanicus* DE GEER var. *saxatilis* RUZSKY, Arb. Ges. Nat. Univ. Kansan, 28, p. 7 (1895).

分布： 樺太；北海道；朝鮮；西比利亞。

本種は樺太には最も普通なものであつて、北海道に於ても大雪山や北部地方には可成普通である。

15. *Camponotus (Camponotus) herculeanus* L. var. *sachalinensis* FOREL

ツヤクロオホアリ（寺西：改稱）

Camponotus herculeanus L. var. *sachalinensis* FOREL, Ann. Mus. S. Petersb., 8, p. 281 (1904).

分布：樺太；北海道；本州。

樺太に於ては前種よりも一層普通のものであるが、北海道に於ては前種よりも寧ろ稀な様である。更に本州に至つては僅かに信州の中央高地附近にのみ産するものである。

16. *Myrmica (Myrmica) kurokii* FOREL クロクシケアリ（寺西：改稱）

Myrmica (Myrmica) kurokii FOREL, Mitt. Naturh. Mus. Hamb., 24, p. 18 (1907).

分布：樺太；北海道；本州。

本種は黒嶽の登山道路の頂上附近に可成普通に見受けられた。道路の小孔から本種が盛んに出入して居るので、其の所を掘つて見ると、土中に〔道松〕の種子が澤山埋めてあつて、その中に本種が澤山に居つた。然しこの〔道松〕の種子はこの蟻が埋没したのではなく、シマリスが埋めたもので、これに本種が集まつたものと思はれるが、この事に關しては確報すべき以上の調査は其の際出来なかつた。

附記：本文に記した蟻の學名は、學友寺西暢氏に同定を御願ひしたものであつて、特にその和命に就ては、同氏が今回新に命名し、又は期する所あつて改稱し下さつたものである。よつて茲に記し、同氏の御好意に對して深謝する次第である。

Ichneumonidae 姫蜂科

17. *Trogus mactator* (TOSQUINET) アゲハヒメバチ

Psilomastax mactator TOSQUINET, Ann. Soc. Ent. Belg., 33, p. 10 (1889); MATSUMURA, Thous. Ins. Jap. Suppl. IV, p. 109 (1912).

Dinotomus xuthi KRIECHBAUMER, Ent. Nachr. p. 27 (1898).

Dinotomus mactator UCHIDA, Journ. Soc. Agr. For. Sapporo, Jap., p. 196 (1924).

(?) *Trogus mactator* HEINRICH, Zeitschr. Aug. Ent., 18, p. 397 (1931).

分布：樺太；北海道；本州；四國；九州；西比利亞；南支那(?)。

Trogus mactator (Tosq.) は *Papilio xuthus*, *P. maackii*, 及び *P. machaon* 等に寄生するものであつて、北はアムール・樺太より、南は本邦の四國・九州まで産するものであるが、特に北海道・樺太には多産するものである。HEINRICH に依れば、南支那 (Prov. Yünnan) にも産すると云ふが、同氏は南支那産のものは頭胸部は全く赤色であつて、恰も *T. bicolor* RAD. 卽ち朝鮮産のものと同様であると記して居る。この事實や分布の關係等より見て HEINRICH の云ふ南支の *mactator* は、恐らく *Trogus matsumurai* (UCH.) であらうと思はれる。

18. *Coelichneumon 8-guttatus* UCHIDA ヤツボシヒメバチ

Coelichneumon 8-guttatus UCHIDA, Zool. Mag., Tokyo, 37, p. 450 (1925).

分布： 北海道；本州。

本種は平地にも可成普通に産するものであつて、寧ろ大雪山には珍らしく黒嶽の小屋の附近に於て採集した 1 雄のみである。

19. *Ichneumon melanotis* HOLMGREN ツマボシヒメバチ

Ichneumon melanotis HOLMGREN, Ichn. Suec., p. 391, (1864).

Ichneumon intrudens SMITH, Trans. Ent. Soc. London, p. 391 (1874).

分布： 横太；北海道；本州；四國；西比利亞；歐洲。

歐洲より本邦まで分布する普通種であつて、ROMAN によれば 1874 年に F. SMITH が本邦より新種として發表した *Ichneumon intrudens* は、本種の Synonym であると云ふ。

20. *Ichneumon daisetsuzanus* UCHIDA (PL. IX, Fig. 5, ♀) ダイセツセアカヒメバチ

Ichneumon daisetsuzanus UCHIDA, Trans. Sapporo, Nat. Hist. Soc., IX, p. 198, ♀ (1927)

分布： 北海道（大雪山）。

本種は目下のところ大雪山特有種であつて、2 雌を北海嶽の高山植物上にて採集したものである。

21. *Stenichneumon rufulus* (UCHIDA) (PL. IX, Fig. 7, ♀) アカマダラヒメバチ

Ichneumon rufulus UCHIDA, Zool. Mag., 37, p. 449, ♂ (1925).

Steichneumon rufulus UCHIDA, Journ. Fac. Agrn. Hokkaido Imp. Univ., 18, p. 93 (1926).

分布： 北海道（札幌・大雪山・天鹽）。

本種は非常に稀なものであつて、僅かに 1 雄、2 雌を著者は採集したのみである。

22. *Hoplitophrys brischkei* (HOLMGREN) ハリガタスヂヒメバチ

Glypta Brischkei HOLMGREN, Svensk. Vet. Akad. Handl., 3, p. 37 (1860).

Hoplitophrys brischkei SCHIMMIDT, Zool. Jahrb., 3, p. 431 (1888); UCHIDA, Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 25, p. 69 (1928).

分布： 横太，西比利亞，歐洲。

23. *Pseudarotes chishimensis* UCHIDA チシマケンヲナガヒメバチ

Pseudarotes chishimensis UCHIDA, Ins. Matsum., 3, p. 179, ♂ (1929).

分布： 千島；北海道（大雪山）。

本種は珍らしい種類であつて、雌は未だ發見せられてゐない。

24. *Scopesus albifrons* (UCHIDA) ダイセツマルヒメバチ

Daisetsuzania albifrons UCHIDA, Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 25, p. 289 (1930).

分布： 北海道（大雪山）。

本種は大雪山特有種であつて、未だ他に於ては發見せられてゐない。而して著者は本種を最初新屬となしたが *Scopesus* 屬と異なる所は、只後翅の Nervellus の性質のみであるからして、茲に *Daisetsuzania* を *Scopesus* の Synonym とする事にした。

25. *Alexeter nebulator* (THUNBERG) ヴグロアメバチモドキ

Ichneumon nebulator THUNBERG, Mén. Akad. Sc. St. Petersb. 8, p. 261 (1822).

Mesoleius melanocephalus GRAVENHORST, Ichn. Eur. 2, p. 28 (1829).

Trypon (Mesoleptus) melanocephalus ZETTERSTEDT, Ins. Lapp., 1, p. 387 (1838).

Mesoleius (Alexeter) melanocephalus HOLMGREN, Svensk. Vet. Akad. Handl., 1, p. 100 (1855).

Mesoleptus testaceus FABRICIUS var. *melanocephalus* MORLEY, Brit. Ichn., IV, p. 224 (1911).

Alexeter nebulator ROMAN, Zool. Bid. Upsala, 1, p. 269 (1912).

分布： 北海道（札幌・天鹽・大雪山）；歐洲。

26. *Astiphromma jezoense* UCHIDA (PL. IX, Fig. 9, ♀) エゾフタツマルヒメバチ
Astiphromma jezoense UCHIDA, Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 21 p. 261 (1928); id.,
 Ins. Matsum., 8, p. 56 (1933).

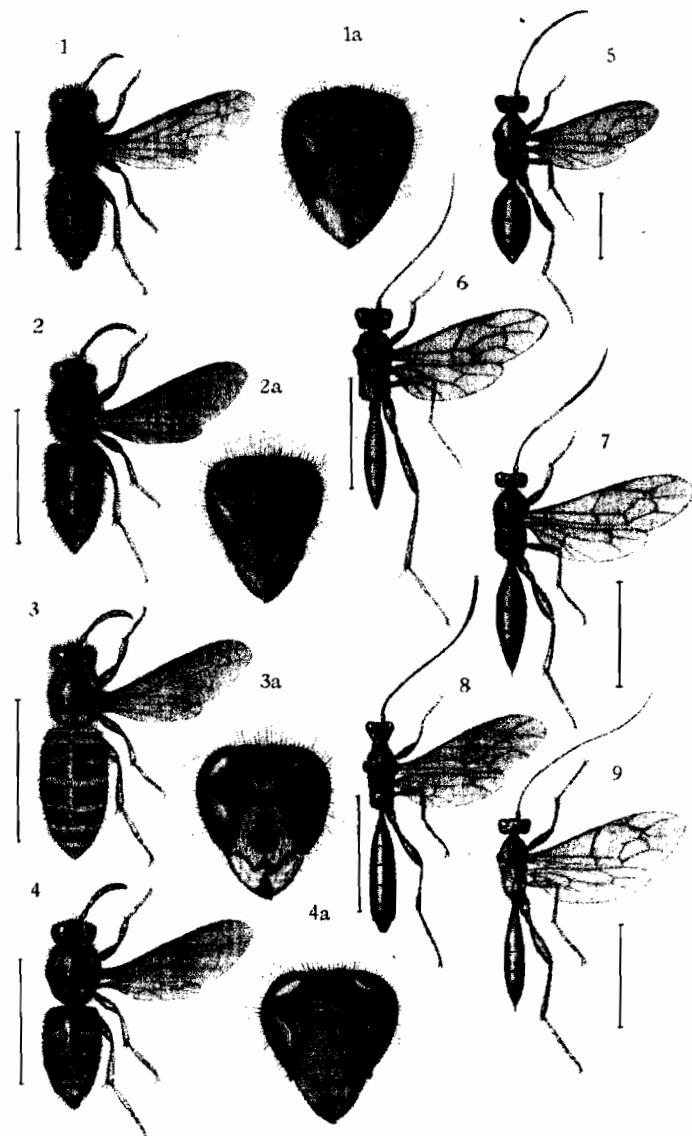
分布： 北海道（札幌、大雪山）。

27. *Alomyia debellator* FABRICIUS f. *japonica* UCHIDA (PL. IX, Fig. 8, ♀)
 ヒロクチヒメバチ

Alomyia debellator FABRICIUS f. *japonica* UCHIDA, Ins. Matsum., 3, p. 175 (1929).

分布： 北海道（札幌・大雪山・天鹽）。

本變種の原種も北海道に產するが、大雪山のものは何れも本變種である。歐洲にも亦本變種の如く黒色形 var. *nigra* GRAVENHORST が產するも、これと異なるところは各脛節に黃色輪のある事にある。



大雪山頂の蜂類
Hymenopteren aus der Alpenzone des Bergs Daisetsu

1. *Dolichovespula media* DE GEER キオビホホナガスズメバチ
- 1a. 同頭部前面圖
2. *Dolichovespula norvegica saxonica* (F.) ホホナガスズメバチ
- 2a. 同頭部前面圖
3. *Vespa (Vespa) sibirica* (ANDRÉ) ナミスズクロスズメバチ
- 3a. 同頭部前面圖
4. *Vespa (Pseudovespa) austriaca* (PANZER) ヤドリススズメバチ
- 4a. 同頭部前面圖
5. *Ichnaeumon daisetsuanus* UCHIDA ダイセツセアカヒメバチ
6. *Pseudarotes chishimensis* UCHIDA チシマケンヲナガヒメバチ
7. *Stenichneumon rufulus* UCHIDA アカマダラヒメバチ
8. *Alomyia debellator* F. f. *japonica* UCHIDA ヒロクチヒメバチ
9. *Astiphromma jezoense* UCHIDA エゾフタラマルヒメバチ